

領域を超えた学問的コミュニティを目指して —平成28年度長野大学研究交流広場の記録—

長野大学では教員の研究成果の発表と相互研鑽の場として研究交流広場を開催してきた。このような機会は以前より設けられていたが、しかし少子化の影響により地方私学を取巻く環境が厳しさを増すに連れ、教員は仕事の多忙に追われ、次第に研究交流の機会は消失していった。その事態に危機感をもった当時の研究推進室長であった野原光教授が2008年に研究会の再構築を図り、研究交流広場は現在のように定期的に開催されるものとなった。

本年度の研究交流広場も長野大学を構成する教員の多彩な研究分野を反映して、環境倫理、高齢者福祉、労働改革、児童の家庭養護、文化財のデジタルアーカイブ、中国語の待遇表現と多岐にわたる。これらの研究会に参加する教員の多くは当該分野については素人である。しかし研究というのは実証の方法、論理の組み立てなど分野を超えて共通する土台がある。各研究会ではこのような研究の基本に立ち返った意見と質疑応答、あるいは分野外であるからこそ気づく素朴な、しかし重要な疑問など活発な意見交換が行われた。この議論は報告者にとっては、研究をさらに進める上での貴重な示唆に富んでいる。今年度は研究交流広場に頻繁に参加している教員が、このような議論の過程も踏まえて、自らの研究を専門書として上梓した。こうした成果が生まれることこそが研究交流広場の趣旨であり、研究推進の内実である。この企画を組織し推進しているものとしては喜ばしい限りである。

長野大学は1966年に当時の旧塩田町と地域住民の熱意と支援によって設立されたいわゆる公設民営大学の先駆である。以来地域に根ざす大学として50年の歴史を歩んできたが、2017年4月1日より上田市が設立する公立大学法人が運営する公立大学に改組され新たな発展の歩みを始める。この節目の年に当たって、研究交流広場により多くの教員が集って活発な議論を展開し、いっそう長野大学の研究推進の内実を強化しなければならない。公立化は長野大学がより良い教育と研究を行う大学として発展するためのケルンである。われわれは教育と研究のさらなる高みをめざして確かな歩みを進めなければならないと自覚を新たにす。

2017年3月

研究推進室長 京谷栄二

(報告テーマと報告者)

第59回 (2016年4月27日)

プラクティカル 生命・環境倫理『生命圏の倫理学』の展開

..... 徳永 哲也

第60回 (2016年6月29日)

高齢者福祉政策の展開過程における基礎自治体の取り組みー新たな様相提示の試みー

..... 越田 明子

第61回 (2016年7月27日)

安倍政権の雇用・労働改革と「働き方の改革」を問う

..... 京谷 栄二

第62回 (2016年10月26日)

子どもの最善の利益を保障する「新たな社会的養育」を実現するために

..... 上鹿渡 和宏

第63回 (2016年11月30日)

有形文化財のデジタルアーカイブに関する研究と今後の取り組み

..... 望月 宏祐

第64回 (2017年2月22日)

現代中国語における待遇表現研究の位置づけと現状

..... 宮本 大輔